



今回は、第二診療部長兼心臓血管外科長の佐藤洋一医師(写真:右)にお話を聞いてみましょう。

Q 心臓や胸の大動脈の手術について教えてください。

- A**
- ①心臓の弁が壊れて血液が逆流したり、弁が硬く狭くなることで心臓に負担がかかる「心臓弁膜症」に対して、人工弁に交換したり自分の弁を修復する手術。
 - ②心臓の筋肉に栄養を送る冠動脈が詰まったり、狭くなって心臓の筋肉に十分に血液が流れない「心筋梗塞」や「狭心症」に対して、冠動脈バイパスを行って血流を改善する手術。
 - ③生まれつき心臓の壁に孔が開いていて心臓に負担がかかるため、孔を閉鎖する手術。
 - ④胸の太い大動脈が膨れる「胸部大動脈瘤」に対して、破裂を防ぐため人工の血管に取り替えたり、足の付け根を小切開してバネ付きの人工血管を瘤の所まで運んで広げるステントグラフト治療などを行っています。

Q 腹部から足先の血管手術について教えてください。

- A**
- 腹部の大動脈瘤に対しては人工血管に取り替える、または形が良ければステントグラフト治療を行っています。下肢の動脈が詰まったり狭くなって血流が悪くなる「閉塞性動脈硬化症」に対しては、人工血管や自分の静脈を用いてバイパスを行ったりカテーテルで広げる治療を行っています。最も手術数が多いのは下肢の静脈瘤で、ほとんどがレーザー治療を行っています。レーザー装置は昨年8月から新機種となり、以前より痛みや出血が軽減されています。